

第2章 横須賀市における自殺の現状

1 横須賀市自殺統計

厚生労働省人口動態統計、警察庁自殺統計および本市独自の自殺未遂者調査票集計を使用して、本市における自殺を分析しました。

(1) 自殺者数および自殺死亡率の推移

本市の自殺者数は、平成20年の107人を最後に100人を下回っています。平成28年は68人、平成29年は83人となっています。

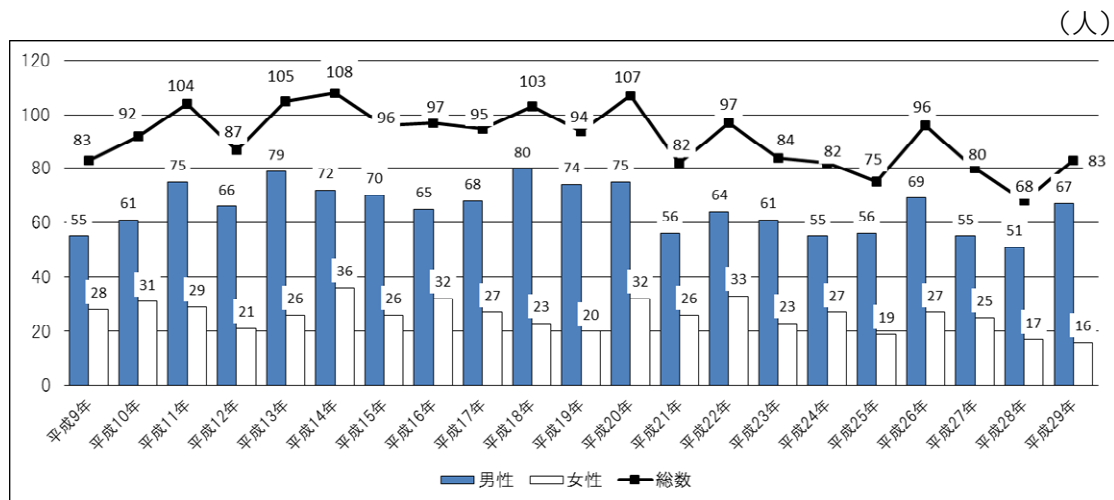


図2 横須賀市自殺者数の推移

出典：厚生労働省人口動態統計

本市の自殺死亡率は、平成20年が最も高く25.4で、多くの年で神奈川県を上回っています。

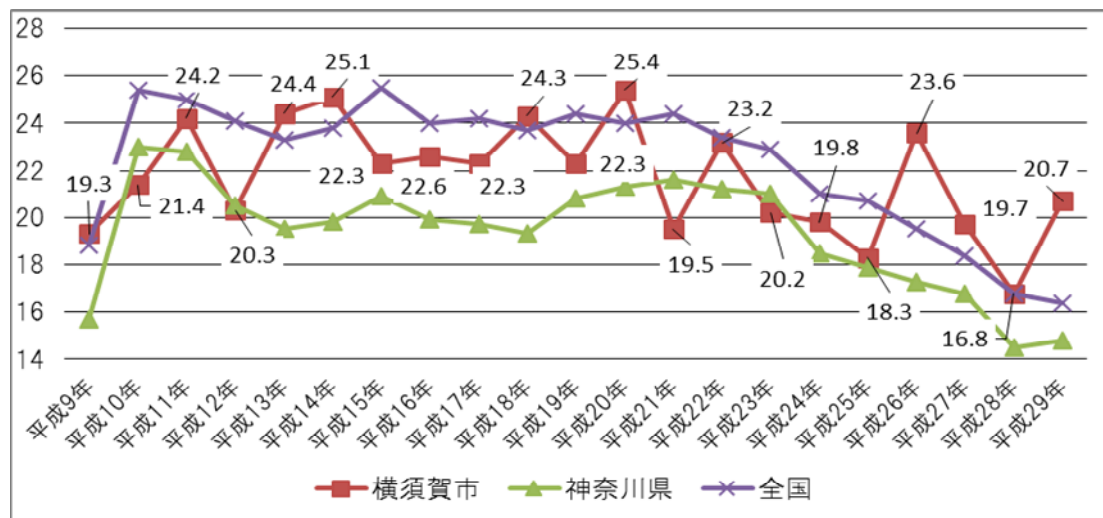


図3 自殺死亡率の推移（全国・神奈川県・横須賀市比較）

出典：厚生労働省人口動態統計

(2) 年代・男女別自殺者数の推移

平成21年から平成29年までの合計を年代・男女別でみると、「60代男性」「40代男性」「50代男性」の順で自殺者数が多くなっています。男女別では「男性」が7割、「女性」が3割となっています。

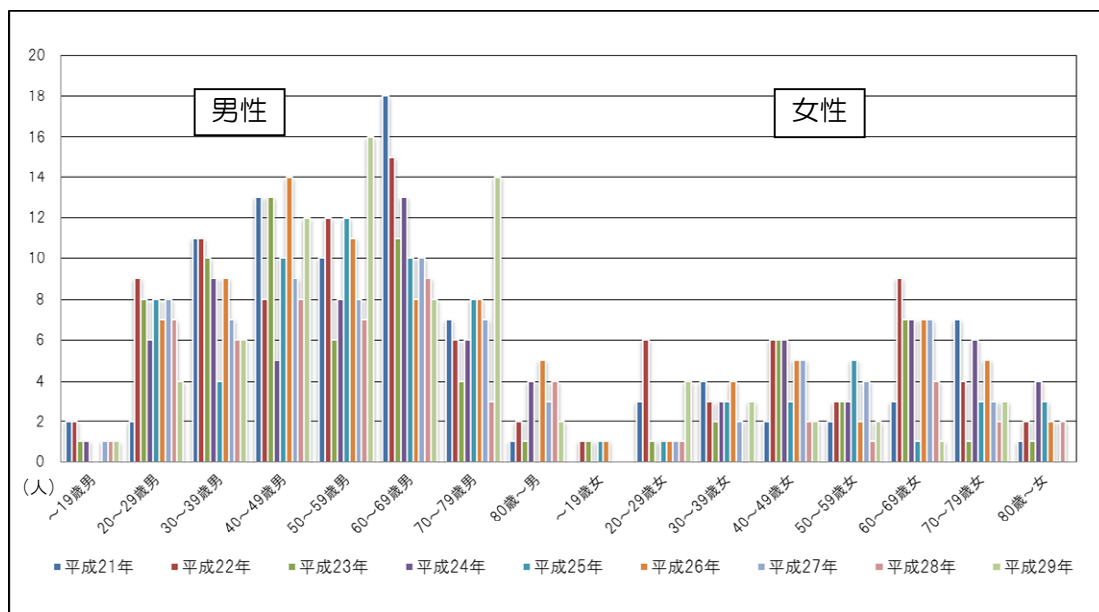


図4 横須賀市年代・男女別自殺者数の推移

出典：警察庁自殺統計

(3) 職業別自殺者数の推移

平成21年から平成29年までの合計を職業別でみると、「被雇用者」と学生・主婦・失業者・年金受給者等に該当しない「その他無職」が多くなっています。

「主婦」「その他無職」は、減少傾向にあります。

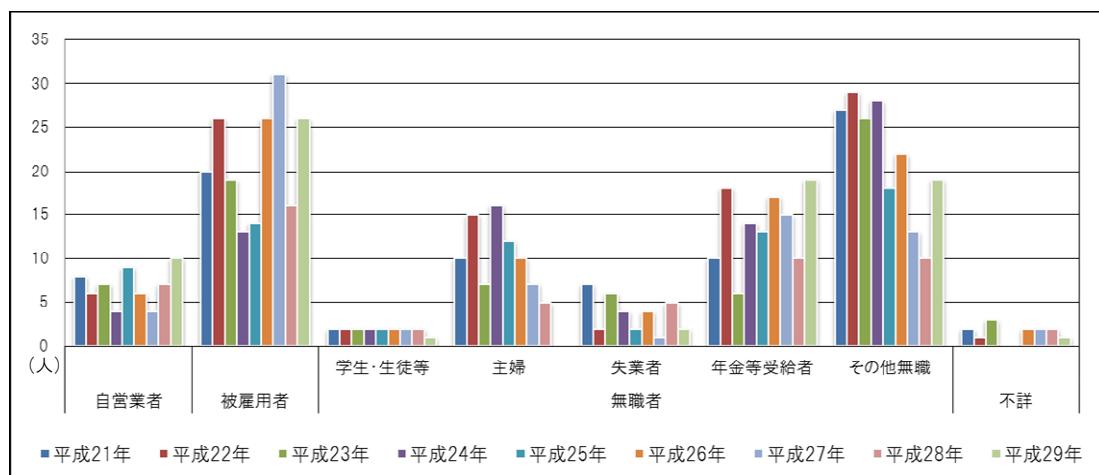


図5 横須賀市職業別自殺者数の推移

出典：警察庁自殺統計

（４）原因・動機別自殺者数の推移

平成21年から平成29年までの合計を原因・動機別（最大3つまで回答可）でみると、「健康問題」「家庭問題」「経済生活問題」の順で多くなっています。女性は男性に比べ「健康問題」の割合が高くなっています。

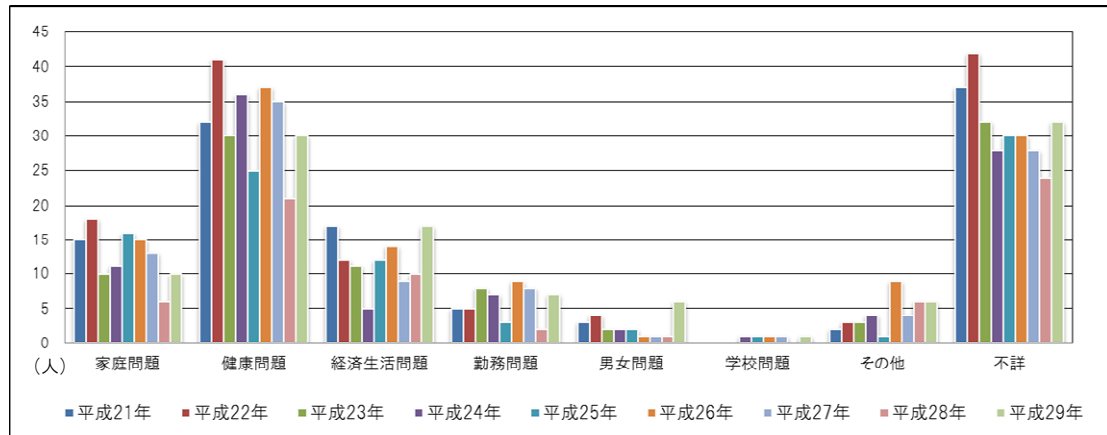


図6 横須賀市原因・動機別自殺者数の推移

出典：警察庁自殺統計

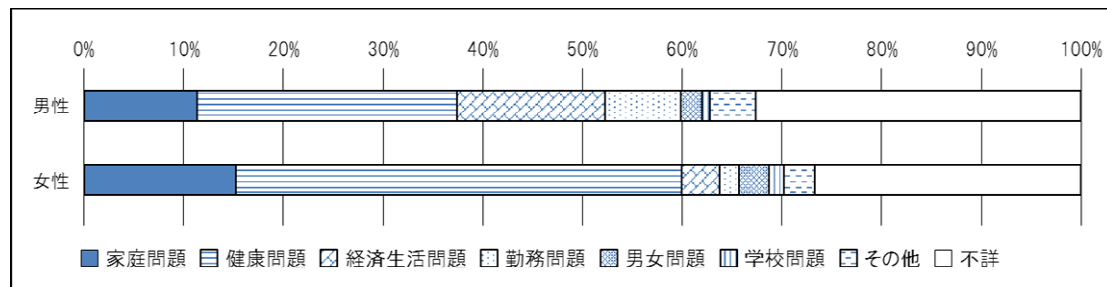


図7 横須賀市原因・動機別・男女別自殺者数

出典：警察庁自殺統計

（５）同居人別自殺者数の推移

平成21年から平成29年までの合計を同居人別でみると、「同居人あり」が多く、特に女性は「同居人あり」の割合が高くなっています。

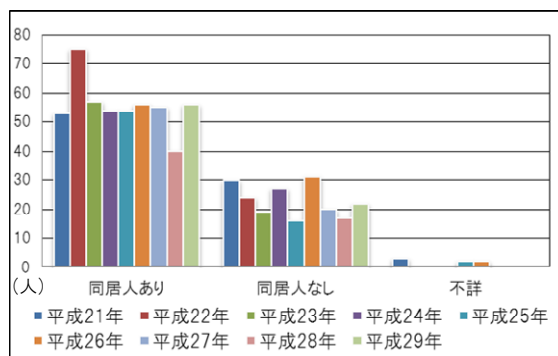


図8 横須賀市同居人別自殺者数の推移

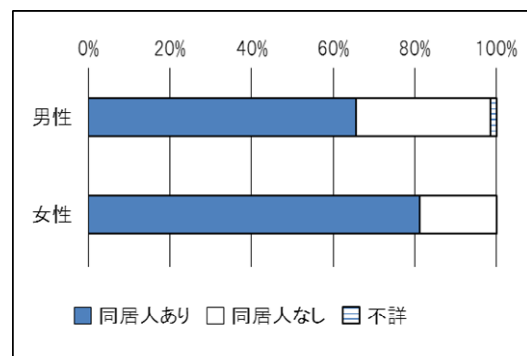


図9 横須賀市同居人別・男女別自殺者数

出典：警察庁自殺統計

(6) 自殺未遂歴別自殺者数の推移

平成21年から平成29年までの合計を自殺未遂歴別でみると、自殺未遂歴がなく自殺する人が多く、特に男性はその割合が高くなっています。

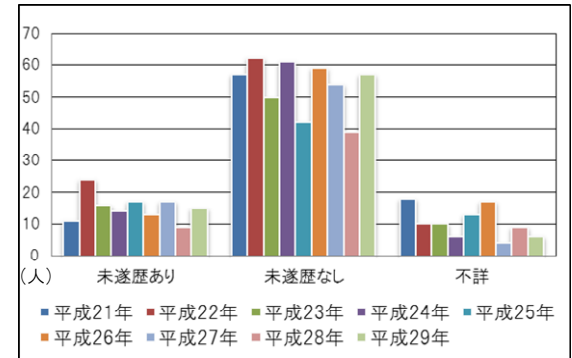


図10 横須賀市未遂歴別自殺者数の推移

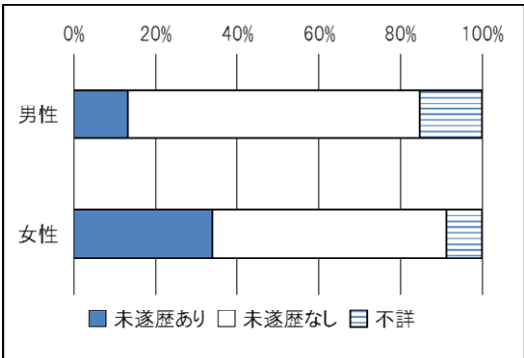


図11 横須賀市未遂歴別・男女別自殺者数
出典：警察庁自殺統計

表1 警察庁自殺統計と厚生労働省人口動態統計の違い

	調査対象	事務手続き上（訂正報告）	確定時期
①自殺統計 （警察庁）	総人口 （日本における外国人を含む）	捜査等により、自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し、計上	国、県、市町村ともに翌年4月頃
②人口動態統計 （厚生労働省）	日本における日本人	自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは自殺以外で処理し、死亡診断書等について作成者から自殺の旨訂正報告がない場合は、自殺に計上しない	国、県は翌年9月頃 市町村は翌々年2月頃

(7) 自殺未遂者統計

【関連施策 P.44】

本市では、横須賀共済病院、市立うわまち病院と連携して、自殺未遂者に対する支援を行っています。

自殺未遂者統計は、この連携により平成23年から平成29年までの「自殺未遂者調査票」などを集計したものです。

自殺未遂者を年代・男女別でみると、「女性」が約7割、「20代～40代」が多くなっています。

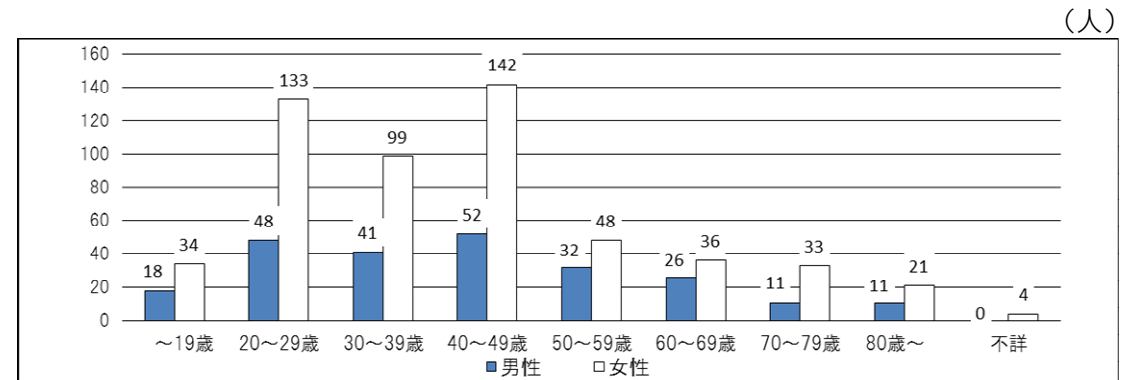


図12 横須賀市年代別・男女別自殺未遂者数

横須賀市健康部

自殺未遂者のうち職業別では「その他無職」が多くなっています。

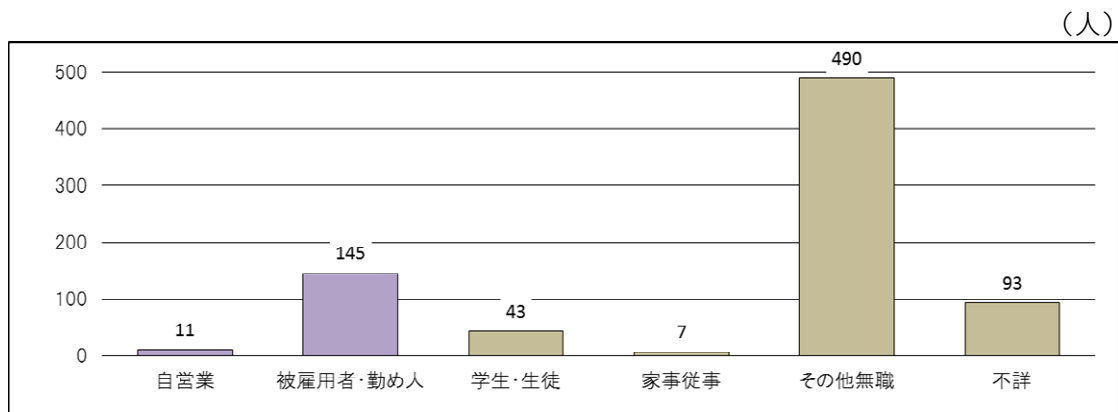


図13 横須賀市職業別自殺未遂者数

横須賀市健康部

自殺未遂者のうち「同居人あり」の割合が約7割と高くなっています。
また、自殺未遂歴別でみると「未遂歴あり」の割合が高くなっています。

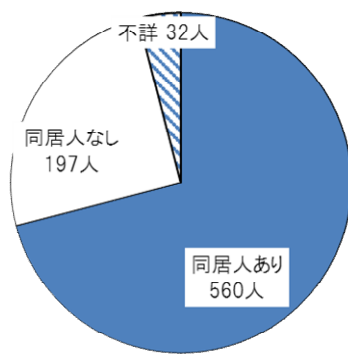


図14 横須賀市同居人別自殺未遂者数

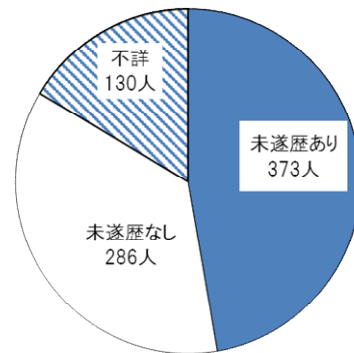


図15 横須賀市未遂歴別自殺未遂者数

横須賀市健康部

自殺未遂者を原因・動機別（複数回答）でみると、「健康問題」「家庭問題」が多くなっています。

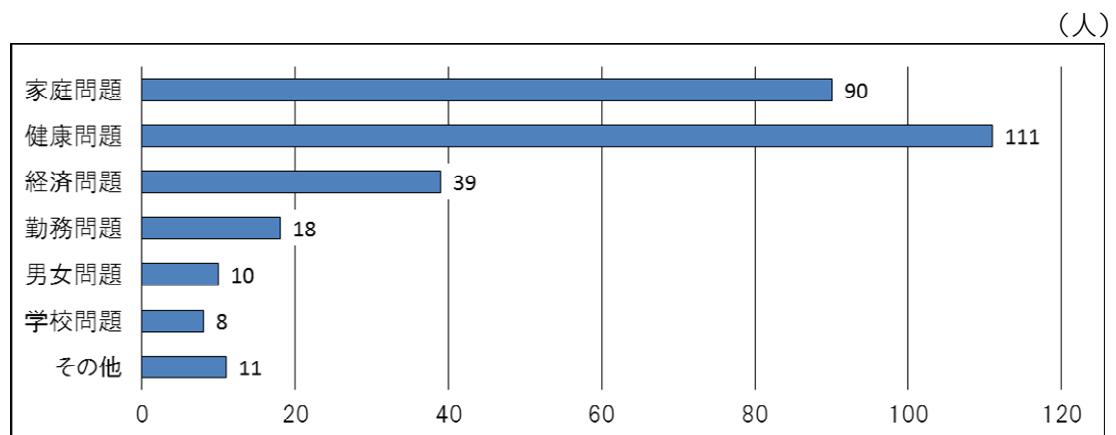


図16 横須賀市原因・動機別自殺未遂者数

横須賀市健康部

※平成25年～29年の自殺未遂支援者を調査

2 市民意識調査分析結果

自殺対策計画策定の基礎資料とするため、市民のこころの健康、自殺に関する意識や考え、自殺リスクなどの状況に関するアンケート調査を行いました。

アンケートの概要

調査対象：18歳以上の市民から1,500人（男女750人ずつ）を無作為抽出

調査方法：郵送による調査

調査時期：平成30年2月26日～3月16日

回収数：576件（回収率38.4%）

アンケートの回答者について

性別：男性43.2%、女性55.0%、無回答1.7%

年代：若年層（18歳～39歳）16.2%、中年層（40歳～64歳）34.7%、高齢層（65歳以上）48.8%

□ 悩みやストレスについて

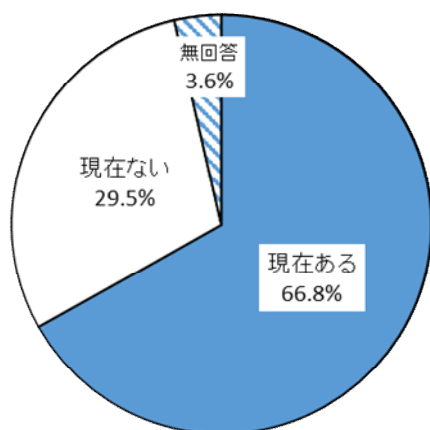


図 17 悩みやストレス
横須賀市健康部

問 「あなたは日頃、悩み、苦勞、ストレス、不満がありますか」

現在ある（「ある」「非常にある」の回答合計）は66.8%でした。

そのうち、男性は66.7%、女性は68.1%でした。

また、年代別では、若年層が82.8%、

中年層が72.0%、高齢層が57.7%でした。

原因としては、「健康問題」「家庭問題」「経済問題」の順でした。

**約3人に2人が、ストレスや悩みを抱えている。
特に若年層の比率が高い。**

問 「悩みやストレスを感じて辛い時に、周囲の人にどのように対応してほしいですか」

【複数回答】

「話をきいてほしい」が46.4%、「相談にのってほしい」が30.0%、「そっとしておいて欲しい」が28.8%の順でした。

女性は、どの年代も「話をきいてほしい」が多く、男性は「そっとしておいて欲しい」が多くなりました。

**「話をきいてもらったり、相談にのってほしい」人は半数以上いる。
男性は「そっとしておいて欲しい」人が多い。**

□相談することについて

問「悩みやストレスを感じた時に、助けを求めたり、誰かに相談したいと思いますか」

「そう思う」「ややそう思う」は44.4%、「あまりそう思わない」「そう思わない」は28.0%でした。

年代・性別でみると、

「そう思う」「ややそう思う」は中年女性が58.0%と最も高く、「あまりそう思わない」「そう思わない」は高齢男性が47.0%と最も高くなりました。若年層は男女ともに「そう思う」「ややそう思う」が半数近い結果となりました。

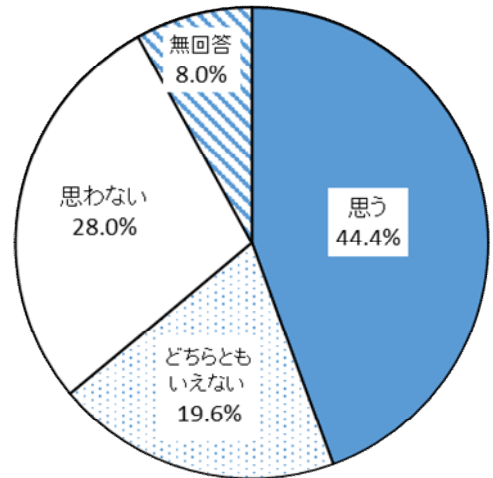


図 18 助けを求めること・相談すること
横須賀市健康部

高齢男性は「あまりそう思わない」「そう思わない」人が多い。

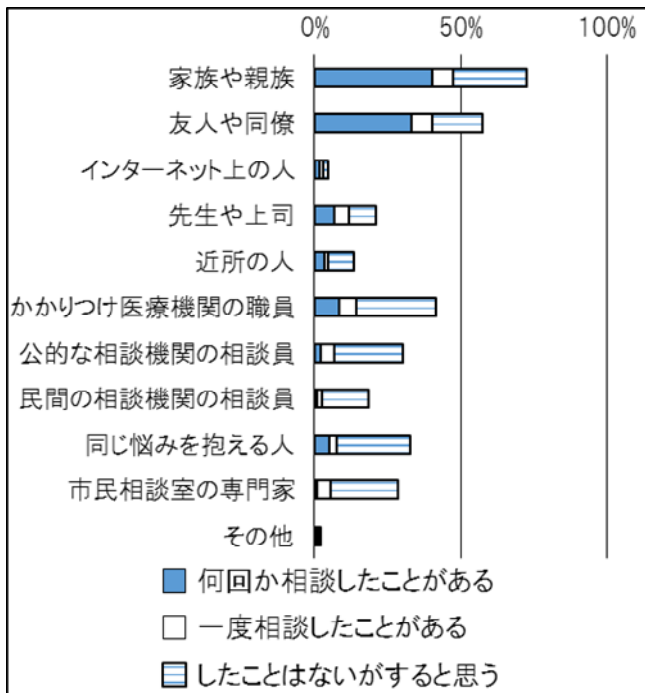


図 19 悩みやストレスの相談相手 横須賀市健康部

問「あなたは悩みやストレスを感じた時に、誰に相談していますか」

相談相手は「家族や親族」が72.0%、

「友人や同僚」が57.0%の順となりました。

年代別では、若年層は「家族や親族」が85.0%、「友人や同僚」が88.0%と最も高くなりました。

また、「同じ悩みを抱える人」に「(相談)したことはないがすると思う」と答えた若年層は33.0%でした。

相談相手は「家族や親族」「友人や同僚」が多い。

若年層は、それに加えて「同じ悩みを抱える人」にも相談したいと感じている。

□自殺に関する考えについて

問「これまでに本気で自殺したいと考えたことがありますか」

「考えたことがある」が13.2%でした。
そのうち男性は31.0%、女性は66.0%でした。
また、年代別で「考えたことがある」割合は、若年層が28.0%と最も高く、次いで中年層が12.0%、高齢層が9.0%でした。

「自殺を考えたことがある」のは
全体の約8人に1人、
若年層（18歳～39歳）の約3人に1人、
女性の約5人に1人。

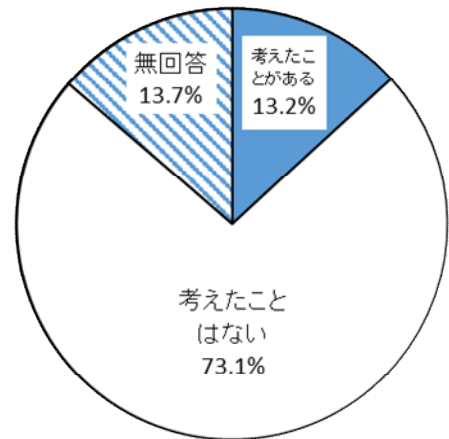


図20 本気で自殺したいと考えたこと
横須賀市健康部

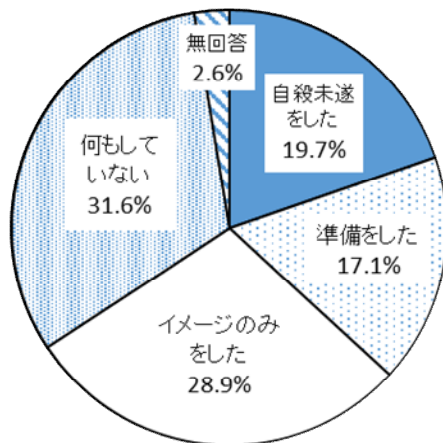


図21 自殺未遂や自殺の準備
横須賀市健康部

問「自殺未遂や自殺の準備など具体的に何かをしましたか」

「自殺未遂をした」「準備をした」が36.8%でした。
男女別では、
男性は「何もしていない」が最も多く41.7%で、
女性は「イメージのみをした」「何もしていない」が
28.0%で同数でした。
「自殺未遂をした」男性は16.7%、女性は22.0%
でした。

女性の方が「自殺未遂をした」人が多い。

問「自殺をしたいという考えを思いとどまった理由は何ですか」【複数回答】

「大切な人のことが頭に浮かんだ」が最も多く31.6%、
次に「時間の経過とともに忘れさせてくれた」が27.6%でした。
「その他」の内容としては、「こわくなった」「迷惑になる」「子どもの笑顔、成長」等
がありました。

問「自殺についてどのように思いますか」

「自殺を考える多くの人は、精神的に追い詰められて他の方法を思いつかなくなっている」が80.4%、「防ぐことができる自殺も多い」が74.8%、「自殺しようとする人の多くは何かのサインを発している」が67.8%の順となりました。
「本気で自殺をしたいと考えたことがある人」は「生死は最終的に本人の判断に任せるべき」が52.6%でした。「自殺をしたいと考えたことがない人」は26.8%でした。

□自殺対策について

問 「横須賀市の自殺対策で知っているものはありますか」

【複数回答】

「どれも知らない」が最も多く55.4%でした。

問 「自殺対策に関する市の啓発物を見たことがありますか」【複数回答】

「見たことはない」が45.3%、
「ポスター」が34.0%、
「広報よこすか」が20.1%でした。

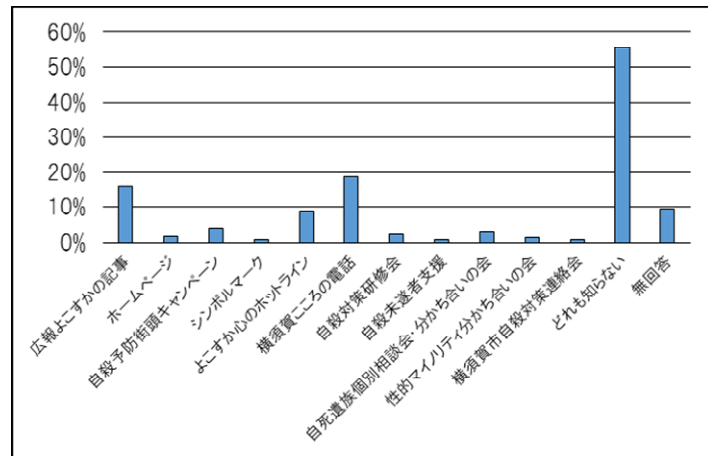


図 22 自殺対策で知っているもの 横須賀市健康部

**本市の自殺対策は半数以上が「知らない」。
啓発物は半数近くが「見たことない」。**

問 「自殺を減少させるために重要と思われることは何だと思いますか」【複数回答】

「精神科医等の専門医へ受診しやすい環境づくり」が最も多く36.3%、次いで「命や暮らしの危機に際して、誰にどのように助けを求めるかを学ぶ」が35.4%、「サークル、趣味、仲間づくり」が33.5%となりました。

「本気で自殺をしたいと考えたことがある人」は「経済的な支援」48.7%、「精神科医等の専門医へ受診しやすい環境づくり」44.7%、「命や暮らしの危機に際して、誰にどのように助けを求めるかを学ぶ」42.1%の順となりました。

**自殺の減少に重要なことは「精神科医等の専門医へ受診しやすい環境づくり」。
「本気で自殺をしたいと考えたことがある人」が重要だと思うことは「経済的な支援」。**

3 横須賀市の自殺の現状

(1) 国から提供された横須賀市の自殺の特徴

自殺総合対策推進センターから「横須賀市自殺実態プロファイル」として示された本市の自殺の実態は、次のとおりです。性別、年代、職業、同居人の有無から自殺者数が多い5つの区分が示されました。

表2 本市の主な自殺の特徴（自殺日・住居地、H24～H28合計）

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:女性 60歳以上無職同居	43	11.5%	15.6	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
2位:男性 60歳以上無職同居	39	10.4%	21.5	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ) +身体疾患→自殺
3位:男性 40～59歳有職同居	39	10.4%	18.9	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み +仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位:男性 60歳以上無職独居	30	8.0%	86.4	失業(退職)+死別・離別→うつ状態 →将来生活への悲観→自殺
5位:男性 20～39歳有職同居	24	6.4%	17.9	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業) →パワハラ+過労→うつ状態→自殺

順位は自殺者数の多さにもとづき、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順とした。

*自殺率の母数(人口)は平成27年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。

**「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書2013(ライフリンク)を参考にした。

出典：自殺総合対策推進センター横須賀市自殺実態プロファイル

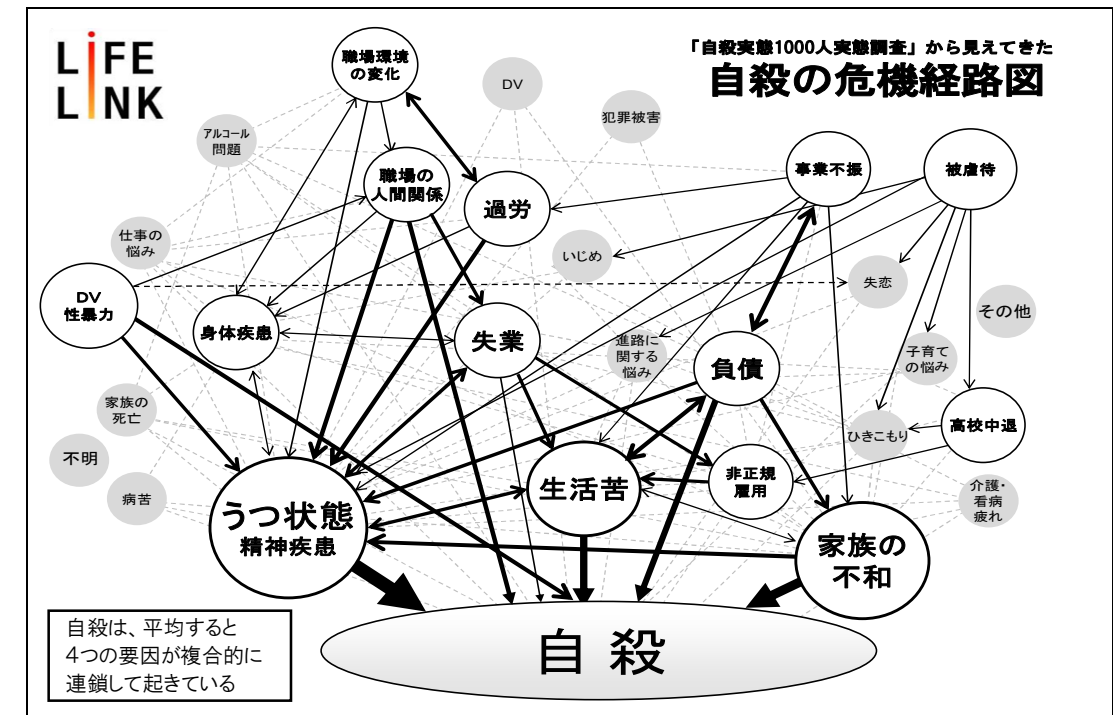


図23 自殺の危機経路図

出典：NPO法人自殺対策支援センター ライフリンク